

平成 28 年度岡山 ESD 推進協議会
岡山 ESD プロジェクト活動支援助成金事業報告書

事業名 講演会や参加型ワークショップ等実施による国際理解の推進

団体名 特定非営利活動法人 AMDA 社会開発機構 担当者名 山上正道

※活動の様子がわかる写真（データもお願いします）と説明を必ず添付してください。

1. 活動内容（日時、場所、参加対象者、人数、内容等）

社会の多様性と日本及び先進国と開発途上国との格差を体験的に学び実践するためのワークショップや勉強会を開催した。また、開発途上国の現状と課題に対する取り組みを理解するための映画上映会や、岡山 ESD フォーラムにてパネルの展示を行った。

① セミナー「国際理解教育に使える教材ツールを学ぶ！」の実施

ESD の取り組みの活性化やグローバル教育の観点から、当団体が開発途上国で実施するプロジェクトを紹介する講演等の依頼を数多く受けている。依頼元からは体験的なワークショップや気づきなどを得られる内容をとの要望が多く、教育機関や公民館スタッフ、ボランティアや社会勉強を希望する学生からもその手法やスキルの習得を望む声が多い。

そこで、国際理解教育を実施する際に活用できる教材を紹介し、教材ツールを参加者が実際に体験し、その後教材を活用する際のポイント等を学ぶセミナーを実施した。

ツールを学ぶワークショップを岡山 ESD 協議会の所属関係者対象に 7 月 23 日（午後）、7 月 24 日（午前）に開催した。講師には、開発教育を日本の教育現場をはじめとする様々な場に広げている特定非営利活動法人開発教育協会に依頼し、大学生、学校関係者など延べ 15 人が参加、「格差の現状」、「豊かさとは何か」、「開発とは何か」についてのワークショップを実践しながら、教材を学ぶ機会とした。教材を活用する際に気を付けるべき点や、国際理解教育の可能性と難しさなどポイントを押さえたワークショップが開催できた。

実施日：平成 28 年 7 月 23 日、24 日

会場：ゆうあいセンター

参加者：15 名（高校の教員、公民館職員、大学講師、大学生など）



入場無料

岡山esdプロジェクト参加事業

【ワークショップ開催】
「国際理解教育」に使える教材ツールを学ぶ！

教育現場や各種講座、セミナーなどで、国際理解教育を充実する際に活用できる教材をご紹介します。ワークショップでは、教材ツールを実際に参加者として体験いただき、その後実際に教材を活用する際のポイント等を講師の方にご紹介頂く予定です。世界で起っている事と日本の繋がりが、協力の基盤も一緒に学べます。教育関係者、NGO/NPO関係者、学生をはじめ、ご興味がある方はどなたでもご参加いただけます。

日時・ともなひ（SDGご専門知識がなくても参加いただけます）
7月23日(土) 13:30～17:30
参加費無料（昼食を体験し、活用ポイントを学びます）
7月24日(日) 9:30～12:30
参加費無料（昼食を体験し、活用ポイントを学びます）

会場：ゆうあいセンター 研修室2

世界の元気を育てたい。



講師
山中 信章（川境医療福祉大学）
担当教員氏名：02-6431-5500（代表）02-6431-5515
参加申込先
（特設）AMDA社会開発講座
◆TEL 026-232-0915
◆E-mail info@amda-japan.org



②事務所を土曜日に開放して持続可能な開発目標（SDGs）の勉強会

毎月第一・第三土曜日を事務所開放日とし、岡山市民が国際協力の活動に触れる機会を提供した。また、SDGsの具体的な行動指針（17の個別目標とより詳細な169項目の達成基準）から、当団体の活動に深く関係する目標に関する勉強会を実施した。

6月3日 SDGsについて
7月2日 SDGs1：貧困
9月3日 SDGs17：グローバル・パートナーシップ
10月15日 SDGs2：飢餓
11月5日 SDGs3：健康と福祉
11月19日 SDGs4：教育
12月3日 SDGs5：ジェンダー
12月17日 SDGs6：水と衛生
2月18日 SDGs8：働きがいも経済成長も
3月4日 SDGs11：都市と人間の居住地を包摂的、安全、レジリエントかつ持続可能にする

③大学にてドキュメンタリー映画上映（会場でのパネル展示）

岡山大学国際医療勉強会 ILOHA と共催で、コンゴ民主共和国で紛争下の性暴力の被害に遭った女性の支援を続けている医師、デニ・ムクウェゲ氏の活動を追ったドキュメンタリー映画を上映し、会場内にて開発途上国の現状と課題、その取り組みに関するパネルを展示した。

映画の背景には「紛争鉱物」など、私たちが日常的に使用している携帯電話やパソコン、ゲーム機などが関係しており、天然資源とグローバル経済について考える機会を提供することができた。また、ILOHA との共催により、特に若い世代の参加を促すことができた。

実施日：平成28年11月4日(金)

会場：岡山大学鹿田キャンパス マスカットキューブ3F

参加者：30名



④岡山 ESD フォーラムでのパネル展示

開発途上国の現状と課題、その取り組みに関するパネルを展示し、今年度 ESD プロジェクトを通じて行ったワークショップ等の説明や、教育機関等で実施した事例の紹介を行った。

実施日：平成 29 年 1 月 22 日（土）

会場：岡山大学創立五十周年記念館



2. ESD の視点を取り入れたところ、ESD の視点で見直したところ

ESD が持つ視点である「課題を自らの問題として捉え、一人ひとりが自分にできることを考え、実践していくこと」を踏まえ、開発途上国の現状と課題を自らの課題として理解し、身近な点からの取り組みができるよう、ツールや教材を活用した。

当団体が実施する社会開発プロジェクトは SDGs（持続可能な開発目標）の達成を目標にしており、ESD との関連も深い。それらのプロジェクト通じて得た経験・知見を開発教育教材の組み合わせ、世界のどこかで起こっている現実をより深く理解できるきっかけをつくることのできたのではないかと考える。

3. 取組の成果（参加者にどのような意識や行動の教育上の成果があったか。感想など）

教材ツールを学ぶワークショップでは参加者より、「みんなと意見を交わすことで、自分の思いに気付くことができた」、「今後の生活で答えを出せたら」などの感想があり、それぞれ手ごたえが感じられた。教育関係者など 7 名の参加があり、このようにツールその物やワークショップ実施のコツを体験しながら学べたことにより、教育現場ですぐに生かせると感じてもらえた。

県内の教育委員会より教員向けに開発教育のツールや開発途上国の現状と課題などのセミナーを依頼され、実施した。現職の教員向けだったこともあり、ESD プロジェクトにより実施したワークショップが今後教育現委で生かされることを期待したい。

学んだツールを活かしたその後のワークショップでは、世界の課題、自分たちの課題に気づけた、開発途上国の課題と自分の生活がつながっていることを知った、自分も何か人の役に立つことをしたいなどのコメントが寄せられた。

4. 今後の課題と展望

教育機関にて講演を実施する際には、シミュレーション的に体感・実感しながら世界の多様性や格差、課題解決などを学ぶやワークショップを実施し、事例として当団体が行う開発途上国の状況や活動内容を用いた。日本国外のことに関しては身近に感じることが容易ではないが、教材として事例を使用し、その現状を表す画像を使用したことからその距離は縮まったのではないかと考える。

今後は組み合わせる教材やツールを増やし、当団体が持つ経験・知見を幅広く教育分野に貢献できればと考える。

岡山 ESD 推進協議会参加一年目ということもあり、ネットワークを十分に活用できたとは言いきれないが、次年度はこのネットワークを活かし、ESD に貢献できればと考える。